

「最近フランク先生からお便りを頂いて、先生の御老令を思い、御長寿を祈るの念一入深くなったので、そのあらましを緑丘の同窓にもお伝えしたいと筆を執りました。三年ほど前にはじめてお手紙をさし上げた時にも大変喜んで直筆のお手紙をわざわざお送り下さいました。その時のお手紙の最後には Your old College Professor とお書きになって、この短い言葉の中に小樽高商を偲ぶお心情が伺われたのであるが、その後二回は奥様の代筆で最後に by Mrs. Lucy Frank と書き添えてあったので、先生にはどこがお悪い

のかと案じ申し上げていた。だからその Complimentary close は普通の Your's sincerely であったのに、今回久しぶりで再び先生御直筆のありがたいお手紙を頂いたがそれには From your affectionate old teacher とあった。この言葉に僕は思はず目頭があつくなつた——」。

戦後四十年を経て、山梨高工の卒業生はフランク先生を慕ってその記念碑を建て遺族の方々をアメリカから招いた。その時同時にそのリリーフを小樽商大に寄贈したというが、緑丘会の諸兄はこのことを御存知だろうか。私はたまたま保延

誠先生からの御教示によってこのたび初めて知ったのであるが、「緑丘」誌上に、大学当局から何らかの報告があったであろうか。恩師に対する敬愛の念において、また同窓との連帯の情において緑丘人は決して人後におちないと思っているのであるが、フランク先生に対する山梨高工卒業生の方々のうるわしい恩愛と深い敬慕の情に心からの敬意を表し、そして同時にルイス・フーゴ・フランク先生の小樽高商と山梨高工における偉大なる足跡にあらためて敬仰の想いを深くするものである。

(完)

アメリカ・オーストラリア体験記

林 利宗
(昭和16年前期卒)

一九八八年八月中旬から十八日間、一九九〇年一月下旬から八日間、米国とオーストラリアへ出張した。勤務先の関係

から食料・農業の問題だったが、ここでは専門的なことは避けて、ごく短期間の旅行で体験したことを、米国ついで豪州

の順に述べてみたい。
○首都ワシントンでは農務省を訪問した。

USDA Visitor Pass



農務省の職員は全員写真入りの身分証明書をネックレスで胸にさげている。

玄関を入ると正面に、ガードウーマンの制服を着用した体格のいい四十歳ぐらいの黒人女性が、訪問目的、訪問相手先の名前などを聞いて帳面に記入させる。記入が終わったら縦六・五センチ、横十センチの黄色の身分証明カードをくれて、背広の胸に張って帰りに返却するようにいわれた。返却することは同カードにも

記載されているが、帰り際に、珍しから日本に持ち帰りたいと申し出たら、私をジロリとみて快く承諾してくれた。現物写真は別掲のとおりである。

○いままで、自動販売機にはあまり関心がなく、当初、そのことには気が付かなかった。だが、八月二十一日、午後の日ざしは真夏のように暑かった。日曜だったので宿舎キャピタル・ヒルトンから程近いヘッチト百貨店へ食料品の価格調査に出掛けた。たまには帰途、某大学院の学生と一緒にみた。彼は初めての米国旅行でワシントンは緑が多く、道幅も広く、ホワイトハウスはじめ博物館なども整備されていて素晴らしいといって手放しで褒めていたが、一つだけ不便なことがある。東京と違ってドリンク類の自動販売機がないことだと言っていた。その後、シカゴ、ミネアポリス、デンバー、デモイン(アイオワ州都)、リンカン(ネブラスカ州都)、フレズノ(カリフォルニア州の農村都市)を訪問、注意して自動販売機を探してみたが、街頭では一か所

も発見できなかった。もっとも、大学事務室の横とか地方都市のホテル内とか建物内に設置されているのはあった。

○アイオワ州では毎年八月の終わりの週に農業祭をデモイン市で開催、八月二十八日は日曜だったので見学に出掛けた。



バックの中味はアイオワ州農産物関係の資料

ある。保廷さんは昭和十三年山梨高等学校機械科を卒業された方で、同校は大正十四年四月の開校である。

ルイス・フーゴ・フランク先生 (Dr. Louis Hugo Frank) は、一八八六年六月二日ライプツヒに生れ、一九〇九年ベルリン大学化学科を優等の成績で卒業、ドクターの称号を得た。一九一二年英国人A・ルーシー・フィッシャーと結婚、一九一三年(大正二年)来日、小樽高商講師となり商品学、商品実験を担当、日本における商品学の実質的創始者となる。在任十三年、その間小樽において長男(Hugo Carl Frank)、次男(Ludwig Ernest Frank)が生れた。大正十五年四月一日山梨高工講師として甲府に赴任、電気化学、電気材料、ドイツ語を担当し、化学系学科創設、確立の種を蒔いた。昭和十一年十月五日永年の教育功績により勲五等瑞宝章を受けた。戦争の拡大と共に当局の監視が強まり、昭和十八年四月三〇日ユダヤ系の理由で在任十八年にして罷免され、横浜に移る。昭和十九年五

月長男一家は箱根強羅に、他は軽井沢に収容、七月長男はスパイ容疑で横浜憲兵隊に逮捕、住宅は戦災で全焼、長男は横浜刑務所で栄養失調により獄死、軽井沢外人墓地に葬られた。昭和二十年六月のことであった。フランク先生は戦後昭和二十四年四月渡米し、米国市民権を得、教職についていたが、昭和四十八年十月八日サンフランシスコで逝去、享年八十七才であった。

我が母校の初代校長渡辺龍聖先生は明治四十三年一月倫理学、修身教授法研究のため満二年間ドイツへ留学を命ぜられたが、留学中に新設の小樽高商の校長をやらないかと時の文部次官より打診され、それでは一つ各国の商業教育をみてみよう、商業教育とはどれだけの意義があるものか研究してみようと考えて、フランス、ドイツ、オーストリアなど、商業教育を視察しその結果、商業教育が非常に国家的任務をもつものであることを確信するに至ったので、小樽への赴任を承知したと云はれている。倫理学を専攻し、

東京音楽校の初代校長であった渡辺先生はいわば畑違いの商業教育の場に身を投じたのである。開校十周年記念式典の式辞のなかで先生は「先輩高等商業学校において教授せざる科目にして本校独特の学科三あり、一は商業実践、二は企業実践、三は商品実験なり」と述べているが、この小樽高商独特のしかも日本最初の科目であった企業実践と商品実験に、ベルリン大学出身のフランク先生が備聘され、フランク先生の学識と教育が日本における商品学の源流になったことは福島大学経済学部教授石井澄男氏の指摘するところである。渡辺校長が小樽高商校長任命の内命をうけてドイツ等の商業教育なかつく商品実験、企業実践を視察した際、一九〇九年ベルリン大学化学科を優等で卒業したフランク先生のことを知りコンタクトされたのではなからうかと推測される。ここにフランク先生の大正二年小樽高商に來任してから第一次、第二次世界大戦をはさみ、昭和二十四年米國へ渡られる迄三十六年間の日本における商品

学の草分けとしての縁が生じたのである。

私は先般東京虎の門にある特許庁図書館で、フランク先生の発明された「魚油脱臭法」の特許書類を入手した。特許第六七二二二号(大正十四年公告第六一六六号)第五百五十八類・三・精製、出願大正十四年二月五日、公告大正十四年八月二十一日、特許大正十五年一月十八日、共同発明者、小樽市緑町二丁目小樽高等商業学校官舎内品川秀三。発明の性質及目的の要領として「本発明ハ魚油ヲ加熱状態ニオキ、硫化水素ヲ以テ処理シ魚油臭ノ起源物ヲ硫化物ニ変化セシムヘクセル魚油臭法ニ係リ、其ノ目的トスル所ハ魚油来ノ悪臭ヲ容易ニ脱臭セシムルト同時ニ、悪臭ヲ発生セシムル物質即チ魚油中ノ不飽和化合物ニ化学変化ヲ起サシメテ之ヲ安定ナル無臭若クハ芳香物トナシ、魚油ヲシテ長時間日ヲ経過スルモ再ビ臭氣ヲ発セザラシメ以テ安価ナル魚油ヲ他ノ高価ナル油脂類ト何等選色ナカラシムルニアリ」と記されている。当時の小樽近海は、沿岸漁業特に鯨漁の中心であり、

魚油製造工場も多く、魚油脱臭法の発明は当時の漁民及び地場産業としての魚油工場にとって多大の利益をもたらすものであったろう。

フランク先生は大正十五年四月一日山梨高工に講師として招聘され、昭和十八年第二次大戦中ユダヤ系ドイツ人の理由で解職される迄十八年間、山梨高工におけるただ一人の外国人教師として学内に西欧科学者精神を伝え、教え子達から深く敬慕された。戦後まもなく渡米、彼の地で逝去されたが、山梨高工の教え子達は追慕の情やみ難く、昭和六十年からフランク先生の記念碑建立を企画し、六十年八月八日山梨大学工学部内の山梨工業会館前庭において記念碑の除幕式が挙行された。式にはアメリカから次男、孫、曾孫の三人が参列し、同時にそのリリーフが小樽商大に寄贈された。

山梨工業会々報「フランク先生特集」(昭和六十一年十月廿五日発行)に「学校創立の頃——山崎先生(初代校長)とフランク先生」という一文がある。「山崎校長

は紳士教育を強調し、洋服の折目をキチンとするよう注意され、学生控室前の廊下の机の上に黒・茶の靴墨とポマードが備付けてあった。これらは化学教官室のフランク先生が主として指導して作られたものであった。フランク先生は前任校小樽高商で生産経営の一モデルとして石鹼工場を創設しておられるから、ポマードを作ることは先生にとっては何でもないことであつたらう。当時学生の間にはフランク先生の給料は山崎校長より多いのではないかと噂されていた。ちなみに手許にある昭和十一年十月一日文部省職員録によれば、山梨高工校長は年俸四三〇〇円(月三五八円)、独国人ルイス・フーゴ・フランク傭外国人教師(月四八四円)である。

養目英三先輩(昭和十一年卒)の独力によって関西で発行されていた「緑丘」第七七・七八合併号(昭和四十五年度)四一頁に西川正巳さん(大正十五年卒)は「フランク先生の御近況を語る」と題して次のように書いておられる。

丘会は「人口論研究六十年を祝う会」を計画し、その推進役の中心を務められたのが大谷先生だった。

祝賀会当日、発起人を代表しての開催に至る迄の経過報告、南先生の学問的業績、母校に対するご功績等を余すところなく称えたスピーチは、強く印象に残った。

この祝賀会の成功は、緑丘で南先生の教えを受けた者なら誰の胸にもあったであろうもやもやしたものを払拭して呉れたし、南先生もこの時初めて緑丘会館を訪ね、大勢の教え子に囲まれ、お気持ちが晴れたことと推察する。

大谷先生は、このお祝いの成功を心から喜ばれ、ご満足の様子だった。

この南先生のお祝いのあと、次は大谷先生の米寿のお祝いであるという気持は、以心伝心大勢の人の胸にあったし、緑丘会員何人かの口からも出た。

ところが、南先生祝賀会成功の喜びも束の間、南先生はこの後五カ月足らずで急逝された。大谷先生は大きな悲しみの

中にも、早速南先生の追想集の刊行を思い立ち緑丘会会員を中心に呼び掛け、元母校学長長谷部亮一氏のお骨折りによって「わが生は人口の学に明け暮れて」が完成をみた。

この原稿を書き初めて幾日か経った時、南先生の追想集を計画していた頃、大谷先生からいただいたはがき(昭和60・7・24付)が偶然出て来た。それは「……おかげで体は無事、その後中国の大学から貿易経営、経済の学者グループ二組来朝してそれぞれ二日に渉る研究報告質疑応答の会合あり、その中間に所要で札幌、旭川へ旅、老来情けない生活です。来る月曜日(二十九日)南先生の集り、拝眉をたのしみにしています、祈御自愛」というもので、「南先生の集り」というのは追想集刊行の打合会で、先生が極めて多忙の中寸暇を割いてのことである。しかも先生の白内障は相当亢進していたようで、印刷物等見るとき、大きな拡大鏡を使っていた。

その後白内障の手術を受け、この方は大

したこともなく済んだようであるが、更に前立腺肥大症の手術をされた後遺症が続いて、急にお年をとられた感じとなった。

大谷先生の米寿祝賀会の計画が具体的に持ち上がったのは昭和六十三年夏のこととて、この世話人の中心は金垣英雄氏(昭和十三年卒)、寒くならないうちに一日も早く実行したいとのことで、祝賀会前に大谷先生にも二回緑丘会館までお越しいただいた。

先生は緑丘を去って五十年近く経っていたが、もともと緑丘出身であり、緑丘関係者との接触は絶えず続いており、緑丘会、母校に対するご功績も極めて顕著であったことも広く知られ、緑丘が誇るお一人であったから、長く母校におられた先生と少しも変わらず、教え子は勿論緑丘人の心に生き続けて来たに違いない。

かくて昭和六十三年十月十七日、先生の米寿祝賀会が、緑丘会館で開かれ、大勢の緑丘会員——特に先生とゆかりの深い卒業生——が出席した。この時の先生

のご挨拶はお体の不調の故もあつたらう、ただ「有難う」という一語に近かい短い言葉は、かえって出席者の胸を打つものがあり、感極まるという空気が会場を流れたと思う。

これが、私としては先生との最後となった。

先生は、商業英語を中心に、六十年に及ぶ長い間中広い研究を続けられ、北海

道、東京、関西と若き学徒の教育に東奔西走情熱を傾けられ、然も教育一筋に偏らず経済界にも国際的にも活躍の領域を広げ、持ち前の博識と優れた見識を発揮されたことであろう。

先生は己れには飽くまで厳しく、他人には極めて寛容、学問に必死の生涯であったが、またこの上なく幸せな人生だったと思う。

再び平山牧師の言葉「……お幸せな方で、真に神と人とが結びつけられていた。神は知っておられる、先生御夫妻は神の前に凱旋したのである。……なくなってしまうのではない……」

大谷先生の御霊の安かれと祈りつつ。

(平成2・4・28記)

一つの奇縁

ルイス・フランク先生のこと

鎌倉 啓三
(昭和15年卒)

ルイス・フランク先生の名をご存知の緑丘会員は幾人居られるだろうか。また緑丘において同先生の教えを受けた卒業生はどれだけ現存しておられるだろうか。

「緑丘五十年史」によれば、L・H・フランク先生は大正二年四月一日から大正十五年三月三十一日迄母校に講師として在

任されたドイツ人、初代校長渡辺龍聖先生に招聘された。私は「緑丘」六十号に、大庭定男君の「戦中ロンドン日本語学校」を紹介する文章を書いたが、この日本語学校の中心人物フランク・ダニエルズ先生の夫人おとめさんのことを知りたく、朝日新聞マリオンの尋ね人欄に投稿した

ところ、これを見た保証誠という方から、大谷敏治先生に尋ねてはどうかとの電話を頂いた。大谷先生からは既にお話をきいていたが詳細はわからぬままであった。この時のご縁で、保証誠氏(元茨城大学工学部教授)からルイス・フランク先生についていろいろと御教示をうけたので

緑丘

- 第51回通常総会..... 2
- 80周年記念募金要綱きまるー募金運動開始近しー.....21
- 事務局だより.....24
- 随想・手記・短歌・俳句.....
 - 英国の生んだ天才詩人、美術工芸家、
社会改良家ウィリアム・モリスと私の人生.....西野嘉一郎...30
 - ぺんぺん草.....大原 孫七...38
 - 大谷先生追想記.....岡本 元次...40
 - 一つの奇縁ールイス・フランク先生のことー.....鎌倉 啓三...45
 - アメリカ、オーストラリア体験記.....林 利宗...48
 - 近くて遠い国から遠くて近い国へ台北そぞろアラカルト.....立花善二郎...52
 - 胃潰瘍の記.....荒 憲治郎...55
 - 表紙「地獄坂の眺め」と武隈先生のこと.....平山 幹昌...57
 - 商大第二期卒(昭29卒)のチャンピオン苦米地和夫君.....上光孝次郎...59
 - 文房四宝.....松橋 玄光...61
 - インド再訪.....大河平元久...64
 - ブルガリア移住夢想の記.....岡崎 雄隆...69
 - 伊藤整文学賞創設さる.....73
 - 句苑緑丘.....78
- 追 悼.....80
 - 物故会員.....85
- 緑丘往来.....88
- 学園だより.....98
- 支部だより.....111
- 同期会だより.....123
- 緑の紙風船.....127
 - 会館利用日誌.....133
 - 会員移動通知.....136
 - 編集後記.....143

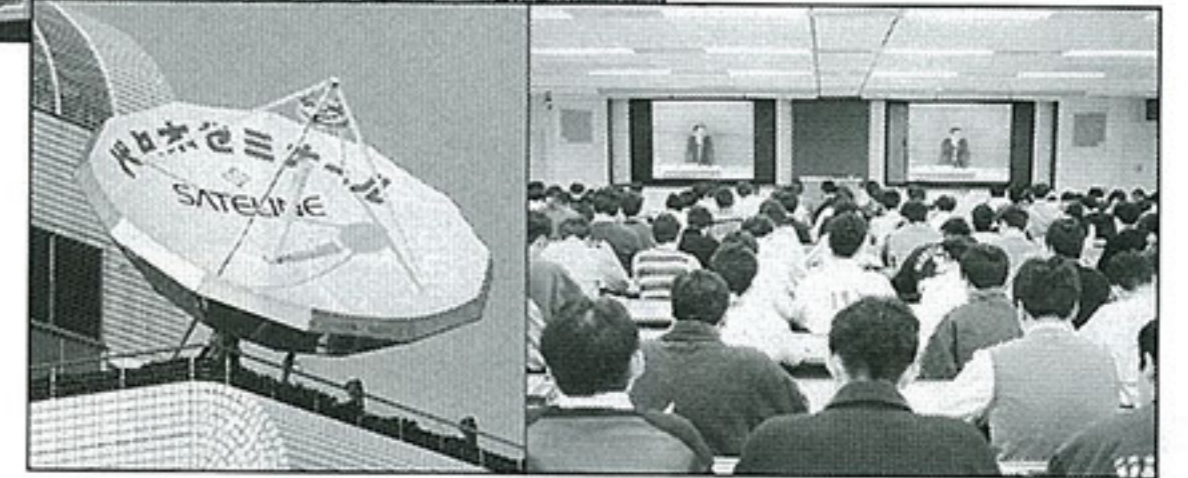


表紙画 平山幹昌(昭28卒)

若者の無限の可能性を育てる。



代々木校



画期的通信衛星教育システムーサテラインゼミ

通信衛星の専用回線を使い、独自の設備と運用によって代々木校
精鋭講師陣の授業を全国の校舎および高等学校へライブ中継して
います。

代々木ゼミナールは
若者の無限の可能性を
育てることに
限らない情熱を持つ
プロの教育集団です

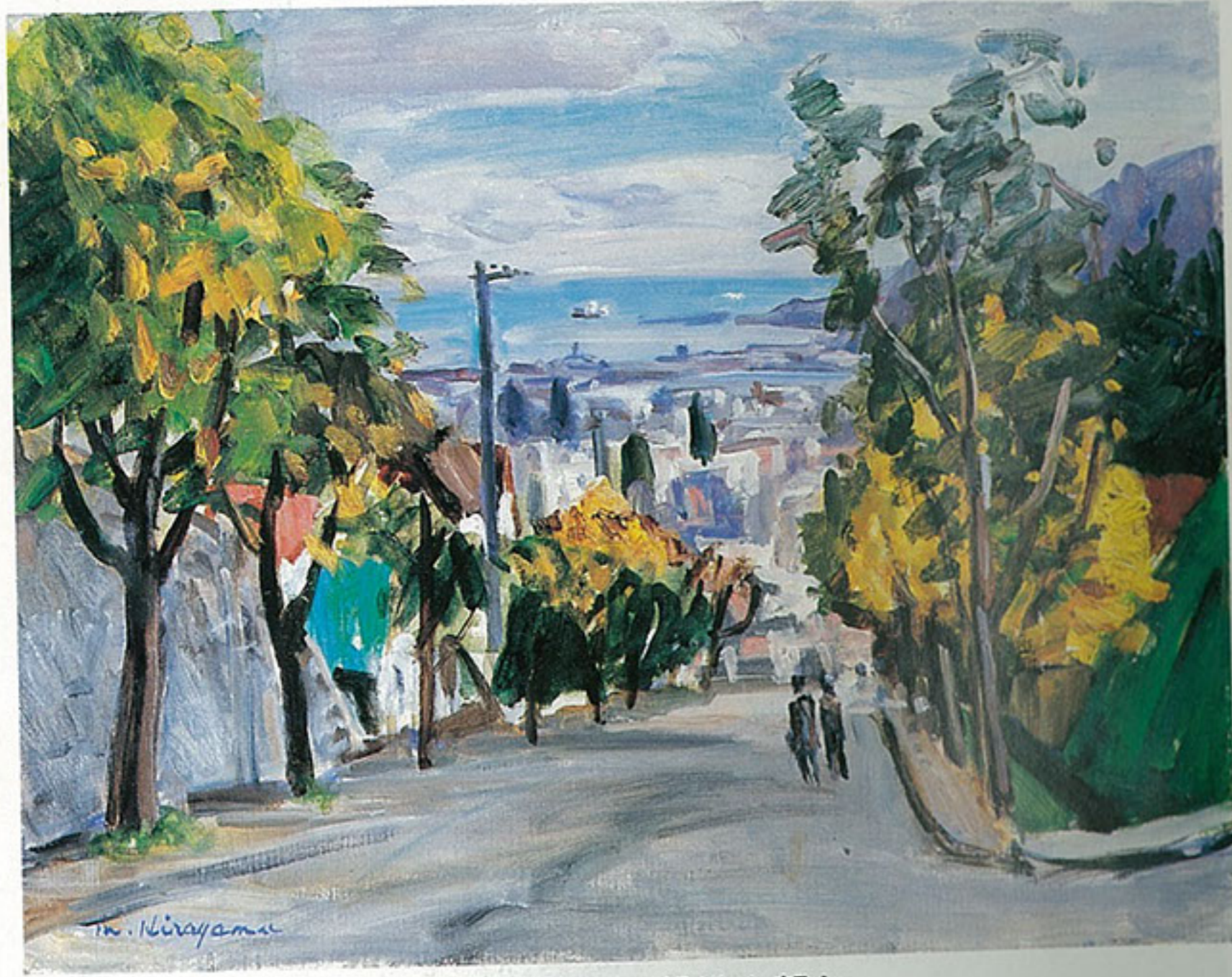
理事長 高宮行男

副理事長 竹村保昭(昭和24年卒)

代々木ゼミナール

代々木校 〒151 東京都渋谷区代々木1-27-16 ☎03(379)5221<大代>
札幌校・仙台校・新潟校・大宮校・池袋校・千駄ヶ谷校・原宿校・立川校・津田沼校・
柏校・横浜校・大船校・名古屋校・京都校・大阪校・神戸校・岡山校・広島校・小倉校・
福岡校/造形学校(東京)・大阪造形専門学校/横浜アトリエ

緑丘



地獄坂より小樽港を望む

社団法人 緑丘会

緑丘 (第六八号)

平成二年七月二十五日

緑丘会東京事務所

〒170 東京都豊島区東池袋三十一-1 サンシャイン60 (57階)
電話 〇三(九八)二三四〇



2
29
103

社団法人 緑丘会

GO DO
コードーの焼酎

合同酒精

眠れぬうまです。ますますますます

ワリッカ・スーパーホワイト新登場。

気の合う仲間が集まって、ワイワイ楽しく過ごす。そんな夜にピッタリのお酒です。ワリッカがさらに新感覚マイルドになった、ワリッカ・スーパーホワイト新登場。麦と、果実原料デーツ(なつめやし)からつくった原酒を組み合わせ、高純度リカーとブレンド。深い味わいと、軽やかな芳香の、ソフト感覚あふれる甲類焼酎です。さあ今夜から、うまき楽しさNON STOP。時間を忘れてお楽しみください。

ワリッカ スーパーホワイト

20% 720ml 560円/1,440ml 1,060円/25% 720ml 640円/1,440ml 1,200円
希望小売価格(消費税込み)



飲酒は20歳を過ぎてから

代表取締役 野口正二郎 (昭和10年卒) 常務取締役 兼 経理部長 兼 財務部長 柴坂 章 (昭和23年卒) 常 監 兼 役員 石井 彰 (昭和30年卒)